



Michigan Newsletter

December 2025

No.15
ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 初開催の日本文化体験イベント
にホイトマー州知事登場！

ページ 1～2

文化交流

1. ミシガン滋賀姉妹県州委員会
JBSD 基金 Grant 授与式に出席

ページ 2～3

草の根交流

1. ランシング・コミュニティ・カレッジ学長
と語る未来のプログラム
2. ミシガンに住みかきに決めた信楽ため
きたち

ページ 3～5

経済交流

1. 初開催の日本文化体験イベントにホイトマー州知事登場！

11月12日、ミシガン州の州都ランシングにて、在デトロイト日本国総領事館、デトロイト日本商工会をはじめとする4団体の主催する日本文化体験イベントが開催されました。このイベントは初めての試みで、ミシガン州議会議員等に日本への関心を高めてもらうことを目的として行われました。

イベント会場には、11名の州議会議員、2名の市長、在ミシガン各国領事、その他、文化、政治経済、スポーツと多分野から日米交流関係者が会場に集まり、茶道、太鼓、生け花、書道、寿司などの日本食を楽しまれました。特に、中盤でホイトマー州知事が到着されると、会場は一気に華やかな雰囲気になりました。州知事は、岸守総領事のエスコートで、生け花や茶道などの日本文化を体験されました。会場の一角に設けられたインタビューコーナーでは、岸守総領事から「What does Japan mean for you?」という質問が投げかけられ、ホイトマー州知事は、「Collaboration, Inspiration, Opportunity, Friendship」と返答され、日本への好印象が感じられました。

インタビューは他のゲストの皆さんにも同様に行われ、協力して下さった方に記念品として、駐在員の提供した信楽焼の福蛙が配られました。ホイトマー州知事には私からピンクのカエルを手渡しました。赴任し早一年ですが、実はホイトマー州知事にお会いしたのは初めてで、滋賀県ブースにて、滋賀県のお茶や3月に姉妹県州委員会で企画している陶芸イベントについてお伝えでき光栄でした。



ゲストに配られた信楽焼福蛙

ミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)もブースを出し、彦根で留学生生活を体験したミシガン州立大学の学生達が参加者にミシガンと滋賀の交流の魅力を伝えてくれました。ランシングで日本文化関連の大きなイベントは少ないため、彼らにとっても日本文化に触れ、日米交流関係者と話をする貴重な機会になったようです。



ホイットマー州知事とミシガン州立大学の学生たちと



滋賀県ブースでの PR の様子

文化交流

1. ミシガン滋賀姉妹県州委員会 JBSD 基金グラント授与式に出席

デトロイト日本商工会による JBSD 基金は、日本と地元コミュニティの相互理解と友好の推進を目的として 1992 年に設立されました。基金の主要な活動のひとつである「JBSD 奨学金」では、彦根市のミシガン州立大学連合日本センターに滞在し日本語等を学ぶプログラムに参加するミシガンの大学生(毎年 6 名)の留学費用の一部を支援いただいています。

もう一つの柱である、JBSD 基金グラントでは日本との相互理解と親善の深化を目的として、ミシガン州内の非営利法人の活動を継続してサポートしており、今回、ミシガン滋賀姉妹県州委員会が、3 月にデトロイトで実施する、信楽焼の作風や作陶手法に影響を受けた日米の陶芸家の作品展に関してこの基金をいただくことになり、12 月 16 日(火)に開かれた授与式に県州委員会会長とともに出席しました。

授与式では、森津 JBSD 基金理事長のご挨拶に続いて、基金を授与された 40 団体より感謝の言葉とともに、支援を受けて実施するプログラム内容が紹介されました。どれも日本とミシガンの友好を目的としたインパクトのある活動ばかりで、活動内容を団体同士が共有できるのは大変有意義でした。

基金を授与された団体の中には、守山市とレナウイ郡(郡庁所在地が守山市の姉妹都市であるエイドリアン市)の中学生交流の担当者、昨年 3 月に参加させてもらったイースタン・ミシガン大学の春祭りの実行委員の学生、6 月にスピーチの機会を頂いたアナーバー・ジャパンウィークの担当者、9 月にブース出展の機会を頂いたサギノー日本庭園のメンバーも見られ、姉妹都市の活動や、これまで私も参加させてもらったイベント等もこの基金に支えられていることを知りました。他にも、外国から来た小中高生が生活や学校に適應していけるよう、多言語の媒体の作成や関連プログラムを実施する団体も多く見られたことが印象的でした。



JBSD 基金は、設立から 30 年以上にわたり、景気の影響を受ける厳しい環境の中でも毎年続けられています。関税や物価高、駐在員の数を減らしている企業もあると聞く中、こうした継続した支援を続け、ミシガン州内の草の根の活動を支えていただいていることに改めて感謝の念を抱きます。



過去にはミシガン滋賀姉妹県州委員会に多大な寄付を頂いたこともあり、なぜこんなにミシガンと滋賀の活動をサポートしてくれるんだろうと、赴任した当初は不思議になるほどでした。今なら、こんな時期だからこそ、少しその理由の一つがわかる気がします。海外で活動する日本企業にとって、日本のことを理解し、肯定的にとらえる人たちが地域の中にいるということは、ビジネスが進めやすく、何よりその駐在員や家族たちの安心や安全にもつながるのではと思います。今回基金を授与された団体の地域社会に根差した活動を通じて、日本に興味を持ってくれる人、日本語学習者、日本が好きの人が地域で増えていくことは、日本人コミュニティにとっても数字では測れない大きな価値になるのではと思います。

基金を授与された団体が皆さんの多くが言及したのは、もらった基金に見合うの活動をし、目的を達成すること。ここからが活動のスタートということで、ミシガン滋賀姉妹県州委員会でも、いただいた基金を活用し目的を達成したいと思います。詳しくは 1 月以降の月報で紹介します。

草の根交流

1 ランシング・コミュニティ・カレッジ学長と語る未来のプログラム

12 月 3 日、ランシング・コミュニティ・カレッジのロビンソン学長と初めて面会する機会をいただきました。面会には、ランシング・コミュニティ・カレッジの幹部、ミシガン滋賀姉妹県州委員会のメンバーも加わり、ランシング・コミュニティ・カレッジの学生が滋賀県で学ぶプログラムの可能性、友好親善使節団を通じた今後の滋賀県との交流について話し合いました。

このレポートでも何度も取り上げていますが、ランシング・コミュニティ・カレッジと琵琶湖汽船株式会社とのつながりができたことをきっかけに、遊覧船「ミシガン」を教育の場として、ランシング・コミュニティ・カレッジの学生が船内でのサービス研修や日本語や日本文化等の学習をするというプログラムがありました。

話し合いの中で、ロビンソン学長は、就任後、この琵琶湖汽船での交流プログラムの参加者と出会う機会が多く、海外に目を向け価値観や考え方を変える体験をすることは大学の将来の戦略のうちの一つであるため、ランシング・コミュニティ・カレッジの学生が滋賀県で学ぶプログラムの可能性について検討していきたいとの言葉を頂きました。さらに、ランシング・コミュニティ・カレッジが提携校としてミシガン州立大学連合日本センターと協定を締結する可能性についても言及されました。

また、2026 年は滋賀県からミシガン州に滋賀県知事や友好親善使節団が来る年であることも話題になり、

ロビンソン学長からは、キャンパス内の重松記念庭園がちょうど 2026 年に 20 周年を迎えるため、知事や使節団のそれぞれの来訪に合わせ、植樹イベントや庭園の周年イベント等を行いたいとのアイデアを頂きました。また、2027年のミシガンから滋賀県への使節団派遣の際には、琵琶湖汽船との交流プログラムの参加者に使節団に参加してもらうことも念頭に、寄付や基金を募ることも検討したいとのことでした。

どちらもアイデア段階ですが、ロビンソン学長はじめ幹部の方たちも滋賀県との交流に深い理解と関心を示してくださったことがとてもうれしかったです。琵琶湖汽船での交流プログラムが終了し 10 年近く経とうとしている中、友好親善使節団を通じて、ランシング・コミュニティ・カレッジが草の根交流の舞台になるのはとても意味があると感じます。琵琶湖汽船との交流プログラムの参加者に使節団として滋賀県を再訪してもらったり、滋賀県からミシガンを訪れた団員には、重松記念庭園のことを知ってもらい、琵琶湖汽船との交流プログラムの参加者と交流してもらえたら、と夢は膨らみます。

ちなみに、ロビンソン学長は日本への渡航経験はないそうですが、重松記念庭園を通じて日本文化への造詣も深く、ミシガン州内のクランブルック日本庭園(1915 年に開園、2025 年秋国土交通省プロジェクトで整備完了)や、オレゴン州ポートランドの日本庭園(日本国外で最も本格的な日本庭園の一つと言われる。2024 年に三日月知事が視察)を見学されており、日本庭園は 1000 年の歴史があり、それに比べれば重松記念庭園はなんと若いことか、とつぶやいておられました。ちなみに、庭園内の池の中を泳ぐカラフルな鯉は、なんと学長が自ら購入し池に放したそうです。今では赤ちゃん鯉が生まれ、一緒に泳いでいます。



冬の庭園は、10月のニュースレターの写真と比べても、様変わりしています。ミシガンの冬の寒さは厳しく、人影は他の時期に比べ少ないものの、庭園の冬景色を楽しみつつ春を待ちたいと思います。

2 ミシガンに住みかに決めた信楽たぬきたち

2026年3月25～28日にミシガン州デトロイト市で、世界中から1万人を超える陶芸関係者が集う陶芸イベント「Volumes, NCECA's 60th Conference」(主催:全米陶芸教育協議会(NCECA))が開催されます。この機会を活用して信楽焼のPRを行うべく現在準備を進めており、信楽窯業技術試験場の高畑場長(ミシガン滋賀姉妹県州委員会が招聘)にも現地で作陶のデモンストレーション等をしていただく予定です。この取組の一つとして、イベント開催期間中にデトロイト市図書館で信楽焼に影響を受けた日米の陶芸家の作品展を開催する予定をしており、その展示会場内で、ミシガン州にある信楽たぬきを写真で紹介したいと考えており、姉妹都市関係者などに声をかけ、信楽たぬきの情報を集めているところです。

日本では滋賀県以外でも見かけることがよくある信楽たぬきですが、ミシガン州内で発見した時のうれしさと言ったらありません。ミシガンに来て一年が経ちましたが、ある時は中学校や図書館で、あるときは個人の家の玄関先や居酒屋で、日本のアニメグッズを扱う店で、海を渡ってやってきた信楽たぬきと私自身も出会いました。

信楽町のある甲賀市はミシガン州トラバースシティ、マーシャル、デウィットと姉妹都市です。発見された信楽たぬきは、滋賀県の姉妹都市関係者がこれらのミシガン州の姉妹都市を訪問した際の記念品であったり、滋賀県への友好親善使節団などに参加したミシガン州の方が家族や自分へのお土産として持ち帰ったものであったりすることも多く、ミシガン州は、アメリカの中でも信楽たぬきが数多く見られる場所かもしれません。もちろん、ミシガンに滞在している、2つの故郷を持つ日本人が、簡単に帰ることができない故郷を思って、心のよりどころとして運んだケースも多いのではと思います。

信楽たぬきはもちろん割れ物で、サイズによってはスーツケースに入れて簡単に持ち帰ることができず、信楽たぬきを持っていきたいという強い思いがないと、海を渡れなかったはずです。信楽たぬきを見つけるたび、ミシガン州に来ることになったストーリーや関わった人に思いを馳せずにはられません。

海を渡った信楽たぬきたちが、ミシガン州でも縁起の良さを発揮して、ミシガン州民、ミシガンに滞在中の日本人の皆さんに幸運を運んでほしいと思います。そして、3月の展示会では、来場者にこの信楽たぬきたちの存在をたくさんの人に知ってもらえたらと思います。



ミシガン州北半島最大の都市、東近江市の姉妹都市であるマーケット市ピーター・ホワイト公共図書館の姉妹都市コーナーにたたずむ信楽焼たぬき



甲賀市の姉妹都市で、甲賀市に学生を派遣しているデウィット中学校図書館に住むサッカー大好き信楽焼たぬき